

令和元年度実施施策に係る政策評価書

別紙 2

(環境省R1-9)

施策名	目標3-3 水環境の保全(海洋環境の保全を含む)				
施策の概要	水質汚濁に係る環境基準等の目標を設定して、その達成状況の改善を図るとともに、適切な地下水管理を推進し、健全な水循環の確保に向けた取組を推進する。また、海洋環境の保全に向けて国際的な連携の下、国内における廃棄物の海洋投棄の規制等による海洋汚染の防止を図る。更に、海洋ごみ対策について、海岸漂着物処理推進法に基づく回収・処理、国内での廃棄物の適正処理等の推進による陸域等からの海洋ごみの発生抑制、海洋ごみの実態把握のための調査研究、国際的連携等に取り組む。				
達成すべき目標	水質汚濁に係る環境基準達成率の向上等により、健全な水循環の確保を目指す。また、廃棄物の海洋投棄の規制等により、海洋環境の保全を図る。				
施策の予算額・執行額等	区分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
	当初予算(a)	2,911	2,716	5,558	6,209
	補正予算(b)	2,709	3,099	0	0
	繰越し等(c)	▲ 58	▲ 362	0	
	合計(a+b+c)	5,562	5,453	5,558	
執行額(百万円)	5,404	5,242	4,576		
施策に係る内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)	第五次環境基本計画(平成30年4月17日閣議決定) 水循環基本計画(平成27年7月10日閣議決定) 瀬戸内海環境保全基本計画(平成27年2月27日閣議決定) 海岸漂着物処理推進法に基づく基本的な方針(令和元年5月31日閣議決定)				

測定指標	1 公共用水域における水質環境基準の達成率(健康項目)(%)	基準値	実績値					目標値	達成
		年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	年度	△
		-	99.1	99.2	99.2	99.1	-	100	
	年度ごとの目標		-	-	-	-	-		
	2 公共用水域における水質環境基準の達成率(生活環境項目BOD/COD)(%)	基準	実績値					目標	達成
		年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	年度	×
		(河川)	95.8	95.2	94.0	94.6	-	100	
		(湖沼)	58.7	56.7	53.2	54.3	-	100	
		(海域)	81.1	79.8	78.6	79.2	-	100	
	全体	90.3	90.3	89.0	89.6	-	100		
	年度ごとの目標		-	-	-	-	-		
	3 地下水における水質環境基準の達成率(%)	基準値	実績値					目標値	達成
		年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	年度	△
		-	94.2	93.9	94.5	94.4	-	100	
	年度ごとの目標値		-	-	-	-	-		
	4 閉鎖性海域における水質環境基準の達成率(COD、全窒素、全りん)等	基準値	実績値					目標値	達成
		-	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	年度	×
		-	別紙のとおり					100	
	年度ごとの目標値		-	-	-	-	-		
	5 地盤沈下監視を実施した地域の内、2cm/年を超える沈下が発生していない地域の割合について100%を目指す。	基準値	実績値					目標値	達成
年度		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	年度	×	
-		82.4	93.1	100	77.4	-	100		
年度ごとの目標値		-	-	-	-	-			
6 陸上で発生した廃棄物の海洋投入処分量(万トン)	基準	施策の進捗状況(実績)					目標	達成	
	年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	年度	○	
	180以下	64	59	12	0	0	180以下		
年度ごとの目標		-	-	-	-	-			

評価結果	目標達成度合いの測定結果	(各行政機関共通区分) 相当程度進展あり (判断根拠) <ul style="list-style-type: none"> ○健康項目全体(27項目)の環境基準達成率(平成30年度)は99.1%で、主要な測定指標はほぼ目標値に近い。なお、基準値超過の主な原因は、自然由来が最も多い。 ○生活環境項目(BOD/COD)の環境基準達成率(平成30年度)については、河川は94.6%、湖沼は54.3%、海域は79.2%、全体89.6%であり、河川についてはほとんどの地点で環境基準を達成しており、概ね目標値に近いものの、湖沼については依然として達成率が低い状況にある。 ○地下水の環境基準達成率(平成30年度)は94.4%と概ね目標値に近い。 ○閉鎖性海域における窒素及びりん環境基準達成率(平成30年度)は、東京湾100%、伊勢湾85.7%、大阪湾100%、瀬戸内海(大阪湾を除く)96.5%であり、窒素及びりんが総量削減の対象項目として追加された平成13年度(東京湾50%、伊勢湾57%、大阪湾33%、瀬戸内海(大阪湾を除く)98%)と比べて着実に改善してきている。 ○赤潮発生件数については、人為的な要因によらず発生することもあり、発生件数をゼロにすることは困難であるが、近年は横ばい傾向となっており、最も件数の多い時期(例えば瀬戸内海では昭和51年度に299件発生)に比較すれば減少している(瀬戸内海では平成30年度に82件発生)。 ○地盤沈下監視(のための水準測量)が実施された地域が毎年異なるため、実績値は年によって変動するものの、平成30年度は77%と例年と比べ達成率が低く、依然として地盤沈下が生じている地域がみられる。 ○陸上で発生した廃棄物の海洋投入処分量については減少傾向にあり、平成30年度も目標を達成した。 			
	施策の分析				
	次期目標等への反映の方向性				
学識経験を有する者の知見の活用	<ul style="list-style-type: none"> ○中央環境審議会水環境部会瀬戸内海環境保全小委員会において、「瀬戸内海における今後の環境保全の方策の在り方について」審議され、令和2年3月に答申がなされた。 ○有明海・八代海等総合調査評価委員会及び二つの小委員会において、有明海・八代海等の再生に向けた評価について検討を行った。 ○法に基づく海岸漂着物対策専門家会議において、平成30年6月の海岸漂着物処理推進法改正を踏まえた基本的な方針の変更について議論し、必要な対応について、検討を行った。 				
政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報	公共用水域水質測定結果(環境省)、地下水質測定結果(環境省)、全国の地盤沈下地域の概況(環境省)				
担当部局名	水環境課 閉鎖性海域対策室 海洋環境室 地下水・地盤環境室	作成責任者名 (※記入は任意)	筒井 誠二(水環境課長) 行木 美弥(閉鎖性海域対策室長) 山下 信(海洋環境室長) 新田 晃(地下水・地盤環境室長)	政策評価実施時期	令和2年9月

4 閉鎖性海域における水質環境基準の達成率（COD、全窒素、全りん）等

別紙

瀬戸内海（大阪湾を除く）における水質環境基準の達成率（％） （上段：COD、下段：全窒素・全りん）	基準値	実績値					目標値
	年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	年度
	—	76.7 96.5	74.3 98.2	74.3 96.5	72.3 96.5	—	100 100
年度ごとの目標値		—	—	—	—	—	
大阪湾における水質環境基準の達成率（％） （上段：COD、下段：全窒素・全りん）	基準値	実績値					目標値
	年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	年度
	—	75.0 100	75.0 100	66.7 100	66.7 100	—	100 100
年度ごとの目標値		—	—	—	—	—	
東京湾における水質環境基準の達成率（％） （上段：COD、下段：全窒素・全りん）	基準値	実績値					目標値
	年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	年度
	—	63.2 66.7	63.2 100	63.2 66.7	63.2 100	—	100 100
年度ごとの目標値		—	—	—	—	—	
伊勢湾における水質環境基準の達成率（％） （上段：COD、下段：全窒素・全りん）	基準値	実績値					目標値
	年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	年度
	—	68.8 71.4	62.5 85.7	43.8 85.7	50.0 85.7	—	100 100
年度ごとの目標値		—	—	—	—	—	
赤潮の発生件数[件] （瀬戸内海/有明海/八代海）	基準値	実績値					目標値
	年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	年度
	—	80/35/25	78/39/19	71/38/13	82/33/13	—	—
年度ごとの目標値		—	—	—	—	—	